

製品名: 切断型 GGT4 HC (T472) ウサギポリクローナル抗体

カタログ番号: APRab08993

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,ELISA 1:5000-1:20000
分子量	50kDa

抗原情報

遺伝子名	GGT7
別名	GGT7; GGTL3; GGTL5; Gamma-glutamyltransferase 7; GGT 7; Gamma-glutamyltransferase-like 3; Gamma-glutamyltransferase-like 5; Gamma-glutamyltranspeptidase 7; Glutathione hydrolase 7
遺伝子 ID	2686.0
SwissProt ID	Q9UJ14
免疫原	抗血清は、ヒト γ -グルタミルトランスフェラーゼ 4 由来の合成ペプチドに対して産生された。アミノ酸範囲: 423-472

背景

この遺伝子は、グルタチオンの代謝とアミノ酸のペプチド転移の両方に関与する酵素をコードする遺伝子ファミリーのメンバーです。γ-グルタミルトランスフェラーゼの活性変化は、肝臓または腎臓における前癌状態または毒性状態のシグナルとなる可能性があります。この遺伝子によってコードされるタンパク質は重鎖と軽鎖で構成され、肺癌の発生に関与している可能性のある細胞膜関連タンパク質であるCT120と相互作用する可能性があります。[RefSeq 提供、2008年7月],触媒活性: (5-L-グルタミル)ペプチド + アミノ酸 = ペプチド + 5-L-グルタミルアミノ酸。機能: グルタチオン抱合体を切断する。経路: 硫黄代謝; グルタチオン代謝。類似性: γ-グルタミルトランスフェラーゼファミリーに属する。サブユニット: 軽鎖と重鎖からなるヘテロ二量体。活性部位は軽鎖に位置する (類似性による)。アイソフォーム 3 は FAM57A と相互作用する。組織特異性: 気道上皮細胞を除き、広範囲に発現しているが、発現レベルは低い。脳、心臓、腎臓、肝臓、肺、脾臓、精巣、気管で検出される。、

研究分野

タウリンおよびヒポタウリン代謝、セレノアミノ酸代謝、シアノアミノ酸代謝、グルタチオン代謝、アラキドン酸代謝

画像データ

